

デジタル資産管理のご案内

資産管理で生産性改善、あなたの会社の利益率向上をサポートするサービスです。

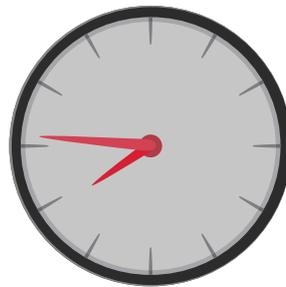
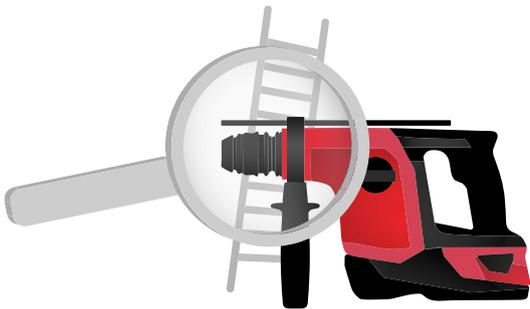
資産の管理は思いのほか時間がかかるものです。社員の時間を無駄に費やし、ちょっとしたコストの原因になっていることにお気づきですか？

実は、どこの会社でも起こっていることです。調査によると、現場に必要な工具や備品を探すのに、建設業界の会社1社平均で月約90時間を費やしています。一例をあげると、あるエレベーターメーカーでは、資産管理に年間2000万円相当の時間とコストを費やしていたことがわかりました。

この時間の浪費が、作業効率を下げ、収益に悪影響を与えているのです。もし、必要な資格の更新や、工具や機械のメンテナンス時期の管理が適切に行われていない場合、さらに問題は重大です。実に建設業界の65%の会社が、これらの管理を適切に行っていないと言われていますが、あなたの会社は大丈夫でしょうか？

なぜこのような問題が発生するのでしょうか。どうすれば問題を解決することができるのでしょうか。

65%の会社が
資産管理に
問題を抱えている



毎月90時間を
工具探しに
費やしている

年間約2000万円を
資産の所在確認に
費やしている



建設業界はデジタル産業のブラックホール

マッキンゼー・グローバル・インスティテュートによる産業デジタル化指数によれば、建設業界は世界で2番目にデジタル化が遅れている業界です。

環境に配慮した建設への需要が高まり、最先端の技術でその需要にこたえる、この建設業界において、驚くべきことに、資産の管理や、ビジネスプロセス、そして働き方において、デジタル化が進んでいる会社が少数派だということです。

多くの企業では、紙の台帳やエクセルシートなどを使った簡単な技術で資産を管理しています。このような作業方法は透明性に欠け、管理を担当する特定の個人依存になりがちです。つまり、その責任者が病気や休暇で休んだ場合に、他の社員が代わりに作業することが困難と複雑を極めるのです。

また、このような方法はハードとソフト、どちらの資産を管理するうえでも、コスト高で非効率となり、両面において、問題と不満のもとになることでしょう。

ハード資産管理の問題

「当初はすべて紙の台帳で管理していましたが、資産を管理し追跡するのは非常に骨の折れる仕事で、ほぼ不可能でした」

ソニック・レールサービス 現場監督 ケビン・ヒル

連動しない管理システムの場合、工具や車両、消耗品などのハード資産を完全に把握することはできません。個々の資産の所在をいつでも正確に把握できるようにしない限り、以下のような問題が起こります。

- **遅延によるコスト。** 資産の所在特定に時間がかかると、必要な時すぐに現場で使用することができません。その結果プロジェクトが遅延し、道具が到着するまで作業員はただ待っていなければなりません。
- **資産の重複購入。** ドリルやセメントミキサー、梯子などの資産の所在を素早く特定できない場合、プロジェクトを遅らせないために、同じものを無駄に購入するケースも多いでしょう。
- **資産の紛失・盗難。** 現在の使用者と管理責任者を示すシステムがなければ、その資産は紛失や盗難に遭いやすく、年間では大きな損失となります。

利益率が厳しくなる状況下で、このような業務上の非効率を正当化することはもはや不可能でしょう。実に、目に見えにくく計算が困難な間接費用は、直接費用の5倍も高くかかっているのです。ソフト資産についても同様のことが言えます。

ソフト資産管理の問題

「業界は猛スピードで変化しています。全体のプロセスを改善するためには、あらゆる側面での効率を向上する必要があります。」

ワンソース・ビルディング・サービス オーナー／副社長
ブランドン・ハウエル

ソフト資産の効率的な管理は、建設業界において極めて重要です。コンプライアンス上、安全衛生資格は常に最新のものでなければならず、作業員は最新のトレーニングを受け、免許を更新する必要があります。また車両税が期限内に支払われ、電気工具は定期的に安全性テストを受け、その他の機械、備品も定期的に整備、校正が正しく行われていないとならないなど、多くの配慮が必要です。

ソフト資産をそれぞれ別のシステムを使って管理すると、さまざまなトラブルが起こることが考えられます。例えば、以下のような例です。

- **時間の浪費。**紙の台帳に、手書きで状況や検査のタイミング等をチェックし、確認する場合、非常に時間がかかり、コスト高となります。自動通知の仕組みがないので、社員に何百時間もの無駄な時間を浪費させることがお分かりでしょう。
- **人的ミスによる高い代償。**マニュアル作業は、ミスを起こす確率が非常に高くなります。例えば、もし誤って必須の安全衛生資格の更新を怠った場合、規制当局から非常に大きな罰金を課される可能性があります。
- **危険な労働作業。**管理方法による見落としが原因で、適正な時期に、検査やメンテナンスが行われなかった場合、社員は安全性を満たさない工具や機械を使用することになります。もしそれが事故の原因となった場合、大きな訴訟問題に発展する可能性もあります。
- **ビジネスの喪失。**契約の多くは、特定の資格やトレーニングの受講条件を満たしている前提で結ばれています。もし現行の方法で更新が見過ごされていれば、契約の対象として考慮されず、既存の契約でも条件違反となってしまいます。

このように、資産の管理が確実にできないことによる、事業の生産性と収益性に対する影響は計り知れません。マッキンゼーによれば、資産の管理が確実にできない場合、大きな建設プロジェクトは予定よりも20%長い期間を要し、予算を80%超過するとの報告もあります。適切な資産管理がより大きな節約効果を生み、高い生産性を達成することは明らかです。

このような問題を解決するのが、資産管理のデジタル化です。しかし実際にはどのようにすればよいのでしょうか。

デジタル資産管理

適切に導入すれば、デジタル資産管理は建設業界の会社に多大なメリットをもたらします。

具体的な方法を理解するには、まず建設業界に適した資産管理システムが実際にどのように使われるか見ていただくのが早いでしょう。

通常は、以下のような特長や機能を持つシステムを探すことになるでしょう。

- **強固なハードウェア。**ハード資産に対しては、手持ち式のデバイスで個別の資産をスキャンしたり場所の確認ができるようなハードウェアが必要です。乱雑な扱いや悪天候にも耐えるような強固なバーコードであることが理想的です。
- **柔軟なソフトウェア。**使用するソフトウェアは、現場でも移動中にも使用できるポータブルなものが良いでしょう。クラウドを使用したものであれば、各使用者がリアルタイムで情報を共有でき、iOSやアンドロイドのスマートフォンでも使用できます。高価な独自デバイスの必要がなく、ハードウェアのコストが下がります。
- **サービス。**どのようなシステムでも、お客様自身の在庫と業務プロセスに応じたカスタマイズは必要になるでしょう。ベンダーのエキスパートのサポートを受けることが理想的で、その中には、データのアップロードや資産のタグ付け、オンサイト・トレーニングなどが含まれます。

デジタル資産管理によるメリットの事例

建設業界の会社にとって、デジタル資産管理がコスト削減と生産性の改善をもたらすメカニズムについて理解するには、実際の使用例をご覧いただくのが近道です。以下の2つの事例から詳細をご検討ください。

1. ハード資産管理

2台のセメントミキサーと1台のアングルグラインダー、3台のドリルが現場で明日必要だとします。個々の機械、工具には頑丈なバーコード・タグが貼られ、スマートフォンでスキャンして資産管理システムに登録されています。

システムにログインし、必要なそれぞれの機械、工具がどこにあるのか、誰が今の管理責任者で、翌日使用可能かどうかを確認します。使用可能であれば、明日の担当者に必要な機械、工具を割り当てます。その担当者は、翌日現場でそれらが使用できるというアラートを受け取ります。

メリット:社員は機械、工具の所在を確認するために、紙の台帳の履歴をチェックしたり、電話で何時間も浪費する必要がありません。機械、工具は、翌日現場に届き、遅延による時間や経費のロスは発生しません。必要な機械、工具が確保されているので、同じものを重複して購入することもなくなるでしょう。さらに多くの資産を現場に移す必要があれば、数分間でそれらの所在場所を探し、割り当てることが可能です。また、システムによっては、ボルトや釘、プラスターボードなどの消耗品も管理できるため、必要な量だけを注文することができ、不要な資産を購入することはありません。

2. ソフト資産管理

資産管理のソフトウェア・ベンダーとともに、ソフト資産をシステムに登録。ソフト資産には以下のようなものが考えられます。

- 安全衛生資格
- 従業員の免許とトレーニングスケジュール
- 車両税納入期限
- 職能団体会員資格の詳細
- レンタル用具の返却日
- 現場の費用配分

これらの項目に対し、認証更新やトレーニングの手配など対応すべき日付を登録します。業務上重要な管理ミスが起こらないよう、対応が必要な社員には期限前にリマインダーが自動通知されます。

メリット:社員が、ソフト資産の更新をモニターする必要がなくなります。自動通知により、個別の必要な作業が関係者に事前に確実に通知されます。その結果、安全衛生検査や資格などの重要事項に対するコンプライアンスを遵守することが容易となり、高額の罰金を支払う可能性を取り除くことができます。

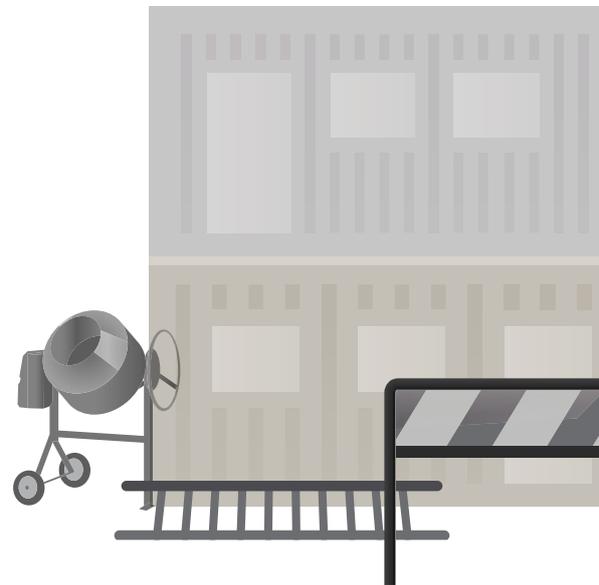
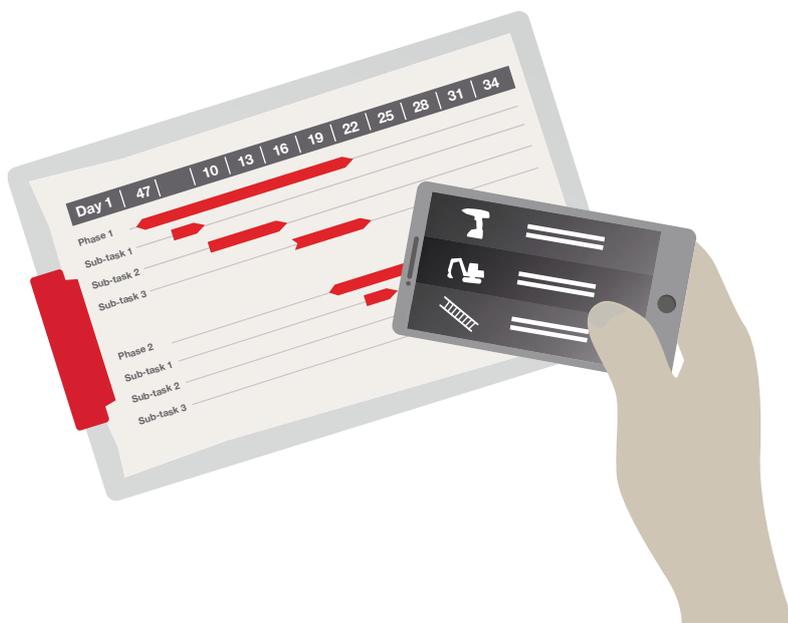
デジタル資産管理への移行事例

「間違いなく元が取れます。工具の紛失が減りました。紙の台帳ではなく、資産の所在を追跡できること。それが大きな違いです。」

ブラックマン・スチール 建築見積の責任者 サミュエル・ブラックマン

デジタル資産管理のソフトウェアはますます操作が簡単になり、費用も相対的に安くなっています。さらに重要な点は、クラウドベースのプラットフォームにより、データの安全性が以前にも増して高まったことです。適切なソフトウェアを選択し、賢く導入することで、ハード資産に対する支出を削減し、社員の時間をより生産的なものに改善します。現場での遅延をなくし、偶発的な規制違反による罰金の可能性も減らすことで、すぐにコスト以上の効果を発揮するでしょう。

デジタル資産管理がお客様の現場の生産性向上をお手伝いします。詳細は[こちら](#)をご参照ください。



ヒルティグループは、技術的に最先端の商品、システム、サービスを建設のプロのお客様にお届けすることによって、世界中の建設業界に高い付加価値と革新的なソリューションを提供しています。世界120か国以上の拠点で25,000人以上の社員が、熱心なお客様のファンを増やし、より良い未来を築いています。2016年の年間売上高は46億スイスフランです。ヒルティのコーポレートカルチャーは、誠実さ、チームワーク、コミットメント、変化を受け入れる勇気に根ざしたものです。ヒルティグループの本社は、リヒテンシュタインのシャーンにあります。